カワネジガイ　*Camptoceras hirasei* Walker

【選定理由】

河川の下流域や平野部の湖沼のヨシ帯やマコモ、カナダモなどの沈水植物群落のある場所に生息する（紀平, 1990）。県内ではこのような場所はほとんど破壊されてしまった。河川下流域の環境がよく保全されていた 1960 年代にすでに本種は、生息地が少なく珍しい種と認識されていた（愛知県科学教育センター, 1967）。1970 年後半より本種の記録された場所を再調査した例があるが（中山, 1978：木村, 1994）、再発見されていない。小型種であるので見落とされている可能性もあるが、50 年以上県内では生息が確認されていないこと、県内の河川下流域の壊滅的な現状を考えると絶滅と評価された。

豊橋市牛川町蒲池, 1941 年, 中山清採集

【形　態】

貝殻は非常に特異な形態で、殻は細長く、左巻きで螺管は、はずれて巻く。殻長は 6–10 mm と小型。

【分布の概要】

【県内の分布】

木曽川水系五条川の須ヶ口付近（愛知県科学教育センター, 1967）、豊川水系豊橋市蒲池（中山, 1978）で生息していた記録があるが、現生息地はない。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。本州から四国にかけて分布するが、産地は局限されている（湊, 1993）。

【生息地の環境／生態的特性】

河川の下流域や平野部の湖沼のヨシ帯やマコモ、カナダモなどの沈水植物群落のある場所に生息する（紀平, 1990）。前述したような本種の生息地についての環境記述が今までの通例で、詳細な生態学的な研究も行われることもないまま、極めて採集例の少ない絶滅危惧種となってしまった。近年、福田・森（2016）により本種の生活史や生息環境の詳細な観察が行われた。それによると、本種の生息には水生植物の多い止水域だけではなく隣接する湿地陸域環境の保全の重要性が指摘された。

【現在の生息状況／減少の要因】

現生息地はない。

【特記事項】

水産資源保護協会（1995）では絶滅危惧にランクされている。岐阜県（2010）では絶滅危惧Ⅰ類にランクされている。

【引用文献】

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.
福田 宏・森 生枝, 2016, 岡山県自然保護センター敷地内の田尻大池で 21 年ぶりに確認された絶滅危惧種カワネジガイ(腹足綱: 汎有肺類: ヒラマキガイ科), ならびに同種の棲息環境と水陸両棲生活に関する考察. 岡山県自然保護センター研究報告, (23): 1–12.
岐阜県, 2010. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生動物 動物編 改訂版.
（https://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/kankyo/shizenhogo/c11265/index_17185.html）
紀平 肇, 1990. 琵琶湖淀川淡水貝類. 131pp. たたら書房.
木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究彙報(第 33 報): 14–34. 全国高等学校水産教育研究会.
湊 宏, 1993. 文献に見るカワネジガイの記録. 南紀生物, 35 (2): 154–156.
中山修一, 1978. 名古屋貝類談話会第 7 回淡水貝観察調査会の記. かきつばた, (4): 4–5.
水産資源保護協会, 1995. 軟体動物. 日本の希少な野生水産物に関する基礎資料(Ⅱ), 131pp.

（木村昭一）